

治山工事現場見学会を通じた地元住民への理解を深める取り組み

中部森林管理局

愛知森林管理事務所

治山技術官

○磯部
おかにわ
岡庭

ようへい
陽平
としお
敏夫

1 はじめに

愛知森林管理事務所管内は、図－１で示す南海トラフ地震・東海地震における地震災害対策推進地域および強化地域に指定されており、住民の防災意識が高い地域です。そのような中、地域住民への治山工事現場見学会を実施しましたので報告します。



図－１ 南海トラフ巨大地震の想定震源

2 工事現場見学会を開催した背景

現場見学会を開催した背景として、①管内の国有林は都市近郊森林も多く住民に近い、山地災害への関心が非常に高い。②実際に工事現場の見学を通じて、施設の機能や役割について写真や数字での説明にとどまらず理解を深めていただける。③地域住民が現場を目で見ることにより安心して暮らせる。これらのことを狙いとししました。見学会は令和6年度の工事現場2か所で行いました。

3 工事現場見学会の実施

(1)瀬戸（東洞川）復旧治山工事

ア 背景および経過

写真－１の赤い囲みで示したように、瀬戸国有林は瀬戸市、春日井市等の市街地に隣接する都市近郊森林です。

瀬戸市では平成23年の台風15号により市内広域で浸水被害が発生しています。本現場でもその際とその後にも出水がありました。このため、地域の自治会等から治山事業を実施してほしいとの要望が出されました。実施に当たっては、自治体や地域の代表者に資料を基に口頭で説明



写真－１ 瀬戸国有林と市街地との位置関係

をすることが通例でした。そこで、良い機会と捉え地域住民を対象とした現場見学会を行いました。また、治山事業への理解が深まったかを確認するためアンケートを行うこととしました。

イ 工事現場見学会

写真－２は治山事業の果たす役割について説明している様子です。写真－３は施工中の治山施設の機能を説明している様子です。瀬戸国有林では今日までの80年間に245か所もの治山事業が実施されていることも併せて説明しました。



写真－２ 説明状況



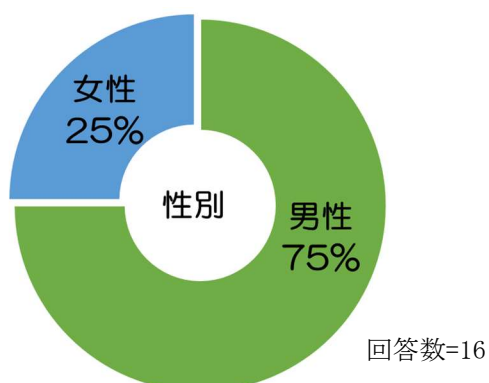
写真－３ 施工中の現場での説明

ウ アンケート結果

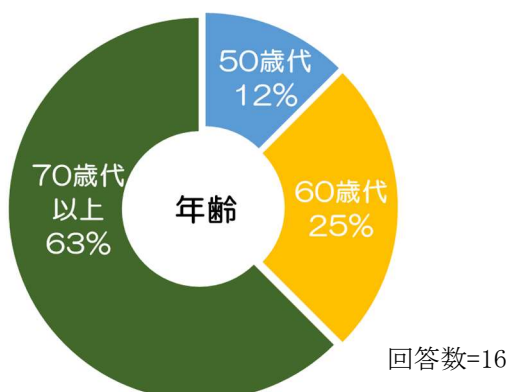
アンケート結果は次のとおりです。図－２は参加者の男女別を、図－３は参加者の年代別をそれぞれ表しています。参加者は全員50歳代以上の方でした。これは、平成23年に発生した災害を経験していることから関心が高いのではないかと推測しています。

見学会に参加した理由を聞いたところ「治山工事がどのように施工されるのか、施工方法が知りたかった」ので参加した。「長年の要望が実現した工事だったから、現場状況を見たくて参加した。」といった理由でした。特に後者については関心の高さが伺えました。

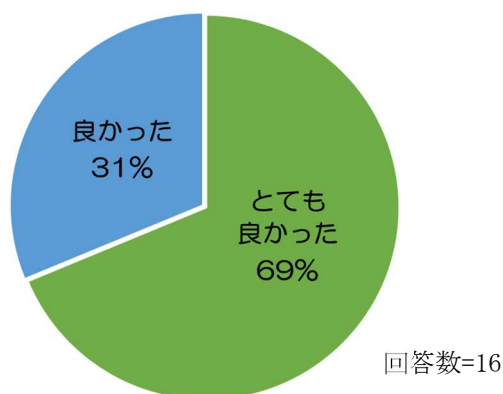
見学会に参加して良かったか聞いたところ、図－４のとおり「とても良かった」「良かった」の回答を合わせると100%でした。このことから見学会を実施したことは好意的に受け止められたと考えています。



図－２ 参加者の男女別



図－３ 参加者の年代別



図－４ 見学会に参加して良かったか

アンケートへ自由に意見・感想・要望を記述してもらったところ「山の工事には、想像もつかない方法で行われていることを知った。」「初めてあのような場所で見学させていただき感謝しています。」といった好意的な多くの感想が寄せられました。

実際の工事現場を目で見ていただくことでより理解が深まったと感じています。

(2) 豊橋（石巻） 治山施設災害復旧工事

ア 背景および経過

写真－４の赤い囲みで示したように、豊橋国有林は豊橋市の市街地に隣接する都市近郊森林です。写真－５は令和５年６月豪雨災による豊橋市、豊川市の被災状況です。

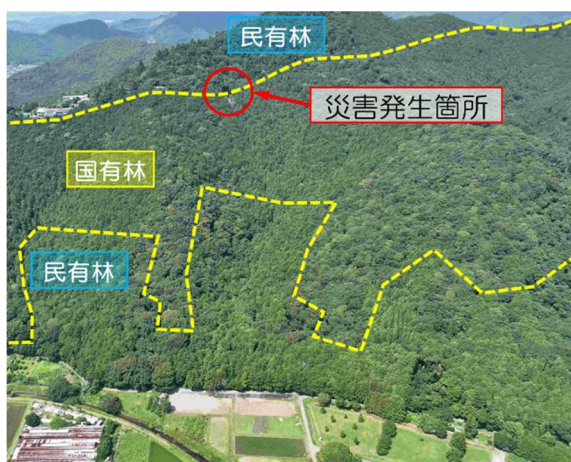


写真－４ 豊橋国有林と市街地との位置関係



写真－５ 令和５年６月豪雨災による豊橋市・豊川市の被災状況

このような中、豊橋国有林では写真－６の赤丸の箇所から山腹崩壊が発生しましたが、幸いなことに多くの土砂は既設の治山施設により国有林内にとどまりました。しかし、現地の早期復旧と今後の二次災害を防止するために治山事業を計画しました。写真－７は崩壊箇所を拡大したものです。国有林上部の市道から下部が崩壊したことが分かります。



写真－６ 山腹崩壊遠景



写真－７ 山腹崩壊および市道崩落状況

災害復旧工事を行うにあたり自治会長へ相談したところ、住民へは概要を回覧すればよいとのことでした。当所としては、①近隣の市道や農道を工事に伴う資材搬入などで通行する必要があること。②市道は地域の人が工事現場を常に目にする機会があること。③治山事業の役割と施設の機能について理解していただくのに適していること。これらのことから、見学会を開催するにあたって良い機会と考えました。開催後には、治山事業への理解が深まったかを確認するためアンケートを行うこととしました。

イ 工事現場見学会

工事中の概要説明（写真－８）をするとともに、完成した後の状況をつかみやすいように写真－９をイメージとして説明しました。



写真－８ 崩壊地を前に説明している様子



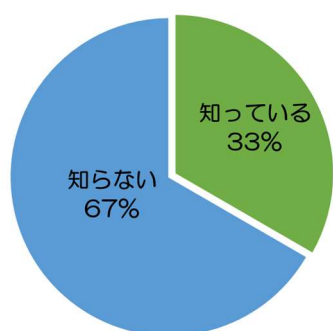
写真－９ 完成後のイメージ写真

ウ アンケート結果

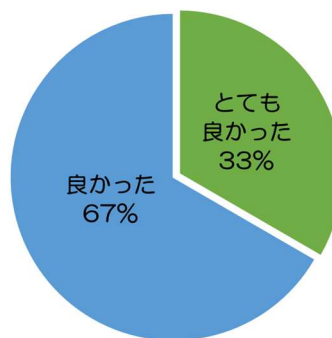
アンケート結果は次のとおりです。治山事業を知っているか聞いたところ、図－５のとおり 7 割近くの人々が「知らない」と回答しています。

見学会に参加した理由を聞いたところ「近隣で発生した災害の規模と復旧状況を確認したかった。」「昨年の水害で土砂の流入した農地については市から説明があり、上流部の状況を説明してもらえとのことで大変興味があった。」「石巻山の南地域に住んでおり、近くに所有する山林があるため工事内容を知りたかった。」といった理由でした。

見学会に参加して良かったか聞いたところ、図－６のとおり「とても良かった」「良かった」を合わせると東洞川の説明会同様、100%の人が良い印象を持ったことが伺えます。



図－５ 治山事業を知っているか



図－６ 見学会に参加して良かったか

アンケートへ自由に意見・感想・要望を記述してもらったところ「どのような工事なのか詳しく説明いただいて大変うれしく思います。よく理解できました。」「地元の人たちが、治山工事で守られていることが分かり安心しました。」「今後も現場見学会をしていただくとより森林が身近な存在になると思います。」といった好意的な意見が寄せられました。そのほかに、「近隣者や登山者に向けて『安全に作業しています』といった標識等でのアピールが少ないのでは。」「一般の人には砂防工事と治山工事の違いが判らないのでその点を説明するとよいと思う。」といった意見も寄せられました。

4 まとめ

治山工事の実施に当たって、目に触れることが多い都市近郊の現場でも回覧板による周知や自治会への説明会に限っていました。今回の当所の試みは、工事施工中の現場を見学していただくことで回覧板など書面の数字では得られない、直接目で見ることによる治山工事の役割と施設の機能について理解していただくことができました。アンケートの結果に記述されているように、これまでとは異なり治山事業への理解が深まることで住民がより安心して暮らせるようになったものと考えています。

当所ではこれからも現地見学会を積極的に開催することで、地域住民の方々がより安心して暮らせるように取り組みたいと考えます。

参考文献

大阪管区気象台HP

<https://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/nankai/QandAmenu/kiso.html>

豊橋市広報「豊橋市令和5年6月大雨の記録（本編）」